

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500467		
法人名	有限会社KSカムレイド		
事業所名	グループホーム松の実		
所在地	福岡県大川市向島2665		
自己評価作成日	平成24年9月6日	評価結果確定日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4072500467-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市博多区元町1-6-16		
訪問調査日	平成24年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元外科医院の建物を改築して開業しているので地域との馴染みもあり、近所の方との交流もうまくなっていると感じている。大川ならではの木工祭、東洋一の昇開橋を背景とした昇開橋祭り等地域での催し物にも恵まれている。職員も地元が多く利用者も職員も方言で会話し本当に家族的な付き合いが出来ていると思える。2～3年前からフィリピン人の職員も増え、利用者への良い刺激となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「GH松の実」は東洋一の昇開橋を眺める昇開橋の近くに立地しており、玄関を開けると施設長手書きの童画に心を和ませ、暖かい雰囲気を迎えられる。「地域の中で、ゆとりを持って、その人らしく生き活きと過ごして貰いたい」という理念が利用者の笑顔と職員のサービスに現れていた。事業所内には施設長の味のある水彩画や、皆で一緒に作った手作りの作品や、季節を感じさせる飾り物などが所狭しと飾られているが、圧迫感はなく、家庭的で温かな雰囲気を出すことに一役買っている。施設長のおおらかな人柄もあり非常に働きやすい職場で、職員の意識も高い上、離職率も非常に低く、長く勤める職員が多い。勉強会などの機会も多く持ち、防災や施設内の殺菌など一つ一つのサービスに対しての意識が非常に高い。毎年、地元民も招いて開催する敬老会では手作りの干支人形を配っており、それを楽しみに来られる方も多く、毎回盛況である。グループホームの理想とする家庭的な雰囲気に満ちており、利用者の表情も明るく、これからも地域に根付き、大きく羽ばたくことが期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着ということ職員間で話し合い一度作った理念を考え直し現在の理念としたことで職員全員が意識するようにした。	地域密着型の意義を踏まえた、簡潔でわかりやすい理念が職員全員で話し合っ作られている。毎月のミーティングでも話し合われ、リビングや事務所内の至る所に掲示され、いつでも意識しながらケアに実践されている。理念には地域との関わりを大事に、利用者に楽しんでもらい活き活きと過ごしていただけるような思いが込められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加することにより地域の清掃や敬老会参加している。また敬老会時には日頃の感謝も含め手作りの来年の干支人形を配っている。	隣組に入っており、地域清掃には利用者と一緒に参加している。いつも隣近所から気に懸けてもらい、地域の方も気軽に相談に訪れるような関わりがある。毎年開催する敬老会は、地域の方も楽しみにしており、好評を得ている。地域の要望により今後事業所を活用したデイケアの開設も計画されている。	地域との関わりをさらに深めるために、定期的な地域を招いた行事の開催や、口腔指導などの介護教室などを企画していくことに今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関に張り紙をし相談へのアピールをしている。また認知症サポーター養成講座への場所提供も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告の他に出席者からのいろいろな意見や情報を聞くようにしたり、地域へのお願いをするようにしている。	利用者、家族の他、民生委員、地域代表、市職員など様々な方が参加され、地域の独居の方の情報を得たり、地域の相談に答えたりと活発な意見が交わされている。外部評価結果も毎回報告し、アドバイスを運営に活かしている。議事録は公開し、誰でも閲覧出来るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新申請時等市役所を訪ねるときに相談するときもある。2ヶ月に1回の運営推進会議時、相談連絡等をおこなっている。	代表は市との関わりが深く、市職員は敬老会にも参加してくれている。窓口への訪問も多いが、日常的にメールによって報告や相談などのやりとりがなされており、事業所の空き情報などは市から聞かれる程で、相互に強い協力関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度職員間で拘束について話し合い安全性を配慮しつつ拘束廃止に取り組んでいる。	外部研修の参加と伝達研修によって職員全員での理解を深めている。危険行為が認められた場合のみ、家族同意の上、拘束を行う事もあるが、毎月のミーティングで経過と見直しを行っている。玄関は常時開放し、センサーと見守りによって管理している。利用者毎の状況を把握しており、隣近所との協力により離設にも備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームでは利用者に対して一切虐待はないと確信しておりますが尚且つ職員が虐待について学ぶ機会を持つようにし理解を深めることで、虐待がおこなわれないように気をつけている。		

自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等勉強する機会があれば職員に出席してもらい報告、勉強会を開くようにしている。	市が主催する成年後見に関しての外部研修に参加し、可能であれば利用者も一緒に受けている。伝達研修によって職員にも周知させており、事業所として支援できる体制が作られている。制度活用されている方も一名おり、資料やパンフレットは掲示もして家族にも説明されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族に説明するように努力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や訪問時にご家族に問いかけるようにしている。利用者には普段の声かけや会話の中から気持ちをつかむようにしている。	面会時や訪問時などに意見を聞き取り、その都度職員とも情報を共有し話し合われている。訪問が少ない方にもお手紙や2ヶ月に1度配布する「松の実便り」によって報告をしている。	利用者や家族の意見をさらに深く聞き取っていくために、運営推進会議の期日を報せて参加を促したり、意見箱やアンケートの活用などを計画していくことが今後期待される。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員の出勤時等個人的に意見を聞くようにしている。	毎月行われるミーティングには全員が参加し、活発に意見が交わされている。日常的にも申し送りなどで利用者の状況を話し合ったり、要望をあげたりもしている。管理者とは何でも話し合える関係作りがされていて、気軽に相談などもなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に出てきて職員を理解するようにし、また職員の資格取得などには本人の意思を尊重し応援するようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、性別、年齢以外に出身国も気にしないようにし、採用後は個人の特性を活かせるように配慮している。	年代や男女も関係なく幅広く採用され、フィリピン人の職員も同じように働いている。無資格者に資格取得の支援を行っており、離職率も非常に低く、長く勤める職員が多い。研修や学習の機会を頻繁に設けており、職員のスキルアップへの意識は非常に高い。それぞれの特技を活かして業務にあたり、休日や休み時間もしっかりとられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部での研修会や講習会に職員を参加させるだけでなく事業所内でも研修する機会を持ち職員の理解を深めるようにしている。	外部研修にも参加し、市が主催する人権に関する映画の上映などには利用者も一緒に参加することもある。労働局の研修にも参加し、人権に関しての学習の機会には全職員に対して広く与えている。	

自己・外部評価表（GH松の実）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	事業所外の研修にはできるだけたくさんの 職員が参加できるように配慮し、研修で学 んできた職員には必ず報告してもらい他の 職員にも役立てるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	市内に連絡会があり交流がもてるようにな っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の困っていることを理解す るよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	ご家族の希望していること、困っていること を聞く機会を設け、対応できる内容につい て話し合うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人の必要性を見極め必要な支援ができ るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合って生活しているという関 係を築くように努め、作業を提供したり色々 な場で感謝の言葉を伝えるようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	本人の様子や要望などをご家族に伝えるよ うに努め、またご家族の思いを伝えるよう もしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる範囲で馴染みの場所や自宅周辺に 行く機会をもうけている。	日頃の会話やその時々サインを読み取って、 自宅周辺に連れ出したり、知人や友人に働きか けて来訪してもらったりしている。電話の支援も 行い、家族への訪問依頼などもしている。事業所 自体が馴染みの場所になるように、買物や若津 神社への参拝や近くの遊歩道の散歩などを行 い、気軽に近隣の方とも挨拶を交わす関係を 作っている。	

自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解するようにし、トラブルを回避し、うまく交流できるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる際にはできるだけの情報渡すようにし、また機会があれば訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いを汲み取るようにし、言葉が困難な場合は表情や態度から思いを理解するように努めている。	契約時に趣味やこれまでの生活を聞き取り、アセスメントにはセンター方式の一部を活用している。入居前から本人の希望を把握し、環境整備を進めている。家族の思いと本人の思いをそれぞれ大事にし、本人本位のケアを提供している。長い時間一緒に過ごすことで職員にしか気づけないサインを読み取り、利用者の表情が明るくなったと家族にも喜ばれている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力のもとに今までの生活歴をできるだけ詳しく知るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当を決め一人一人の理解を深めるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきがあればその都度職員間で話し合うようにし介護に活かすようにしている。	職員一人が三人の利用者を担当し、毎月のカンファレンスで全員の状況を申し送り、話し合っている。フロア毎に全員分のケアプランを管理して、職員間で共有している。見直しは6ヶ月毎と、必要があったときには随時行っている。理学療法士も常駐しており、リハビリの観点からアドバイスなども行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録ノートに日々状態、様子を記録するようにしている。		

自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を行い、緊急の場合も応じた対応をしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容院や訪問歯科と連携を図り、本人を支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医の継続を奨め、その関係を支援するように努めている。	かかりつけ医はそのまま継続し、希望があった際には提携医に変更している。往診は毎週行い、通院介助は家族とも協力して行っている。家族とは診療の都度連絡をとっており、情報を共有している。医療に関わる記録は色分けして分類しており、わかりやすく整理されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化やそのほか異常が見られたときは速やかに看護師に報告するようにし、指示を仰ぐようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報を提供するようにし、家族とも情報の交換をおこなうようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大事にし、医療機関とも話し合い、できるだけの支援をおこなうようにしている。	契約時に看取りの意思を確認し、希望を尊重した支援をしている。最後を「GH松の実」で、と希望される方も多く、これまでも何名か看取らせて頂いた。提携医も24時間対応しており、関係機関とも連携をとっている。終末期に関する事業所方針を定め、ターミナルケアの研修にも参加して職員のスキルを高めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成する他、勉強会をひらいている。		

自己・外部評価表（GH松の実）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、事業所内で避難訓練をおこなっている。地域の方にも協力をお願いしているが、実際の訓練にも参加していただけるようにしていきたい。	2ヶ月毎に内容を変えて、消火、避難、通報、夜間想定訓練を行っている。家族にも参加してもらい、地域の方にも避難場所を提供してもらうなど協力を依頼している。職員も地元の消防団に入っており、手順はよく理解されている。各部屋に防災袋を備え、備蓄物も半年ごとに確認、AEDの設置もしており、防災に対する意識は非常に高い。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の援助方法や声かけ等にも自尊心に配慮するよう指導している。	呼びかけ方は、家族とも話し合っそれぞれに合わせたものになっている。親しみをもってもらいながら失礼のないように、フロア毎に管理者が目を配り、気づいたときに指導するようにしている。プライバシーにも配慮し、本人の気持ちを尊重している。個人情報に関しても留意し、写真の利用は許可を得た物のみ使うなど気をつけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でよりよい関係を気づくようにし、本人の思いを伝えやすいような環境作りができるよう指導している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にし、無理強いする事のないように、可能なかぎり希望に添うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、ご家族の希望のもとに理美容院を利用してもらっている。服装も本人に任せたり、尋ねながら更衣介助するようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態を考慮した食事形態であるが、そのなかでも嗜好を配慮するようにはしている。材料の下ごしらえ等にも協力してもらっている。	メニューは管理栄養士が作り、栄養配分などを管理している。利用者も皮むきや下ごしらえなど手伝いながら職員が調理を行っている。全員が同じテーブルを囲みながら和やかに食事が楽しまれ、地元の食材を利用したり、メニューにも赤飯や刺身をいれたり変化を持たせている。希望があれば決まったメニュー以外でも柔軟に対応しており、調査時も食事を楽しんでいた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に栄養士さんに献立をつくってもらい、それを個々に合わせて提供するようにしている		

自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じた介助を行うようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをつかみ、無理のない範囲で支援するようにしている。	個別の記録表によって排泄を管理しており、その都度口頭によって申し送っている。自分で出来る事は自分でしてもらうよう、本人の意思を尊重した介助を心がけている。声かけやプライバシーにも配慮しており、気持ちよく生活できるように、それぞれの状態などは職員の経験により、把握されている。	個別の記録や、職員の経験によって利用者にあわせた対応をしているが、時系列での排泄リズムの把握や、コミュニケーション漏れをなくしていくために、更に一歩進んだ排泄チェックの方法を検討していくことが今後期待される。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、牛乳等の水分補給、繊維物、運動の提供を習慣化している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どうしても事業所側の日時になりがちだが、その中でもできるだけ利用者の要望を聞くようにしている。	週3回、基本的には午後から個浴によって入浴してもらう。浴室には暖房が備え付けられ、入浴剤や季節の浮かべ物などで入浴を楽しんでもらうよう配慮している。拒否のある際も本人の気分を損ねないようにスムーズに対応しており、家族によって温泉に連れて行ってもらうこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態、体調や表情をみながら休息を促したり、夜間眠れないかたには昼間の日光浴、運動などを提供するようになっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に使用している薬の内容をファイル作成している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力、性格に合わせて作業や、レクリエーション、外出支援をおこなっている。		

自己・外部評価表（GH松の実）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者の希望に添うようにし、また地域の行事や催しものに出かけたり、季節ごとの風景の変化を感じていただけるよう支援している。	日常的に散歩や買物などの外出をしており、車いすの方も介助によって周囲の散策などを楽しんでいる。年間行事は希望を元に計画し、季節毎の花見や神社参拝、うどん屋やファミレスの外食など定期的に外出イベントを行っている。必要などときには家族に依頼して連れ出してもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと個人でお金を所持しているかたもいます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話、手紙への支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が狭いので絶えずいろいろな音や話し声、調理の匂いなどがしているが、かえってそれが安心に繋がっていると思える。また照明などは利用者と相談の上暗くしたり、明るくしたりしている	どこにいても職員の目が届くちょうど良い広さで過ごしやすい。自宅のリビングにいるような、落ち着いた和やかな雰囲気、皆が一緒に時間を楽しんでいる。観葉植物や可愛い絵など全体が柔らかな色彩に統一されている。オゾン殺菌を行っており、風邪をひくことも少なくなった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いなかでも工夫し、居場所をつくれるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときにできるだけ使い慣れた物を持ってきて頂き、「居室も思うようにしてください」と頼んでいるのですがなかなか難しい現状です。	居室のプレートは手作りの似顔絵が描かれたもので、部屋には介護電動ベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。家財道具は自由に持ち込み、ラジカセで音楽を聞いたり、ソファで友人との会話を楽しんだり利用者は思い思いの部屋で居心地良く生活している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に応じてフロアでの椅子の場所なども居室に近い場所、トイレに近い場所にしたり、押し車を押しやすい広さを確保するようにしている。		